

メーソン著 『中国の服飾』 英語と仏語の解説を伴った60枚の版画の図版集

Mason, George Henry. The costume of China, illustrated by sixty engravings with explanations of English and French. London, W. Miller, 1800. 60 plates (copper. hand-col.) 38.0×27.0cm 383.122-M (文献番号10-71)

Hiler p.575 Colas 2009 Lipp.1520 Beall Ch1

18世紀後半から19世紀初期にかけては広東を拠点とするイギリスと中国との貿易の全盛期であったが、同時に中国社会の評価がヨーロッパにおいて高まってきた時期でもあった。イギリス軍の少佐であり、1790年ごろに広東に滞在していた著者もまた序文で次のように中国人を評価している。「中国人は総体に、手先が器用で、物腰は優雅で洗練されている。国家の制度は道徳的で賢明であり、刑法は公平で適切である。自分たちを世界中で最も幸福な国民にするために、天恵の授与以外の何物も必要としないように見える。」と。

著者は、手に入れたスケッチの中から図版を選択し、知人の協力を得ながら解説を加え、ヨーロッパの人々に中国の風俗・習慣を伝えることを目的として本書を刊行した。また、1808年には『中国の刑罰』The punishment of China も著している。

3枚は官吏と高貴な身分の女性を描いているが、残りはすべて物売り、職人、大道芸人、物乞い、農民などの庶民を描いている。これらの中では大道店が多くみられ、書籍商、豚肉屋、パイプ売り、薬屋、枕売り、笛売り、魚屋、毛皮商、野菜売りなどの物売りは当然としても、床屋、靴作り職人、鍛冶屋、陶器を修理する職人、鋳かけ屋などの職人も、天秤棒をかついでいる姿や横において仕事をしている様子が描かれている。

施しを乞う僧、からくり芝居屋、犬使い、蛇使い、軽業師、人形芝居、猿使いなども放浪する人々だったのであろう。

解説の長さはさまざまだが服装だけではなく、身の廻り品や衣食住・職業の習慣などにも言及している。図版の下方には、原画を描いたPu-Qúa (広東の芸術家) と版画を製作したDadley (英国の版画家) のサインがある。1802年に同じ出版社から刊行された『トルコの服飾』(文献番号10-57) の図版もほとんどDadleyの手による版画である。



中国官吏の正装